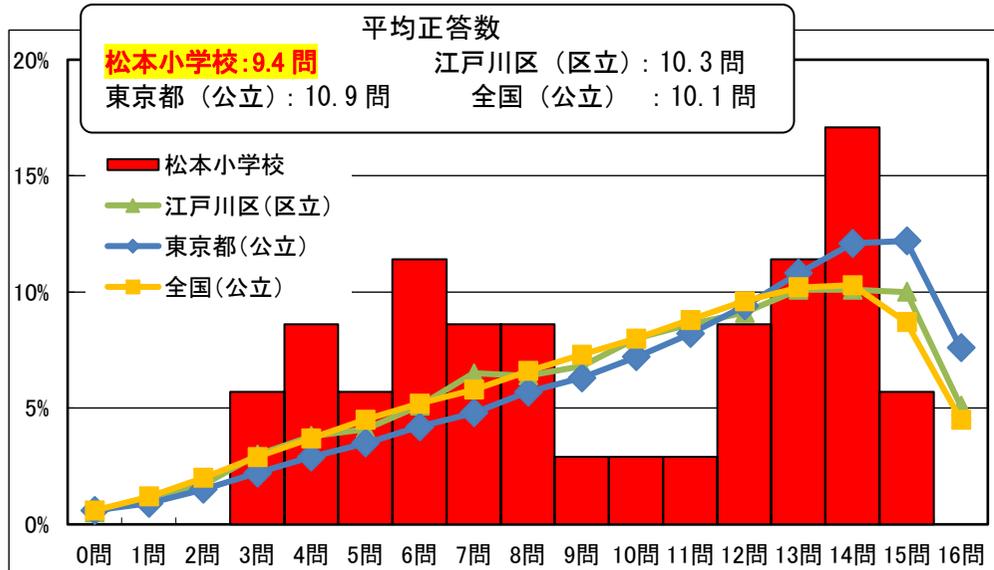


令和6年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 松本小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

| 算数 | 上位 ← | | → 下位 | |
|----------|--------------|--------------|-------------|------------|
| | A層 14~16問 | B層 12~13問 | C層 8~11問 | D層 0~7問 |
| 松本小学校 | 22.8 | 20.0 | 17.3 | 40.0 |
| 江戸川区(区立) | 25.2 | 19.2 | 29.8 | 25.8 |
| 東京都(公立) | 31.9 | 20.2 | 27.4 | 20.5 |
| 全国(公立) | 23.5 | 19.8 | 30.7 | 26.0 |

【平均正答率の差】

| | |
|----------|--------|
| 松本小学校 | 59% |
| 江戸川区(区立) | 64% |
| 東京都(公立) | 68% |
| 全国(公立) | 63.4% |
| 都との差 | -9ポイント |

【分析結果と授業改善に向けて】

平均正答率は区、都、全国どれと比較してもやや下回っている。四分位における割合を見ると、D層が全体の4割を占めていることが分かる。正答数分布のグラフを見ても中間層が少なく、学力の二極化が顕著に見られる。領域別の結果を見ると、「変化と関係」が他に比べて苦手であることがわかる。文章題と図を結び付けて考えたり、2つの量の関係を捉えて立式したりと、情報を処理する場面でのつまづきが見られる。普段の学習を積み上げてきたことで、基本的な問題を解く力は付いてきている。適用問題等で文章問題や図と関係付けた発展的な問題にも取り組むようにしていく必要がある。

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果

